

平和のピース

豊見城市立とよみ小学校
五年 竹富 花

六十七年前の雨はおそろしかった
地面に落ちてはドカンとなった
すさまじいひめいがひびいた
やがてひめいはばく音とともにうす暗い空へときえた

六十七年前の雨はてごわかった
どんなに願ってもだめだった
ぜったいやまない雨だった
六月二十三日までは

日本のばくだん落ちた時
平和がいつきにはめつした
ばらばらパズルになっていた
一ピース、一ピース、こなこなになってとびちった
毎年六月二十三日にピースは少しずつ集まってきた
もうこんなことはおこさない
もうもどらない命のことを考え
あふれんばかりの悲しみでむねをいっぱいにしてしながらみんながみんな決意した
あの日の笑顔をもどすため、心やさしくゆずり合おうと…
しかし、まだ平和のパズルは完成しない
いじめ、ぼう力、国と国との争い、戦争
まだまだ悲しい事がある

いつになれば完成するのか
残りのピースは今どこなのか

それは、まだ戦争の事をよく知らない人がみんなと共に、戦争の事を理かいし、
心を一つにすれば、平和のパズルが完成する